



東日本大震災後の8年半にわたる料理教室の活動体系と自主開催への移行事例の特徴



伊藤常久¹⁾ 木下ゆり²⁾ 黒田藍³⁾ 佐藤香菜子⁴⁾ 伊東尚美⁵⁾ 福田吉治³⁾

1)東北生活文化大学 2)東北生活文化大学短期大学部 3)帝京大学大学院公衆衛生学研究科
4)中京学院大学短期大学部 5)福島県立医科大学医学部

日本公衆衛生学会COI開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等は下記です。
受託研究:公益財団法人味の素ファンデーション

目的

東日本大震災後、被災者の食生活の改善とコミュニティの再生・活性化を目的に、味の素グループ・公益財団法人味の素ファンデーション(TAF)は、東北3県(岩手・宮城・福島)で「ふれあいの赤いエプロンプロジェクト」に取り組んだ。本研究では、多組織連携の活動体系を明らかにし、自主開催への移行事例の特徴を示すことである。

【プロジェクトの特徴】

- ・参加型の料理教室
- ・行政や住民組織等(パートナー団体)と協働



【活動実績】

活動期間:2011年10月~2020年3月

実施回数:3,771回 延参加者数:54,434人



プロジェクトの詳細はこちら↑

調査方法

- ①TAFの活動記録(2012年4月~2020年3月)からパートナー団体の種別、役割等について集計・分析
- ②TAFとパートナー団体への聞き取りから、TAFによる直接的支援終了後(2020年4月以降)に自主開催へ移行したパートナー団体の活動経緯、役割分担、具体的な取組方法について分析

結果

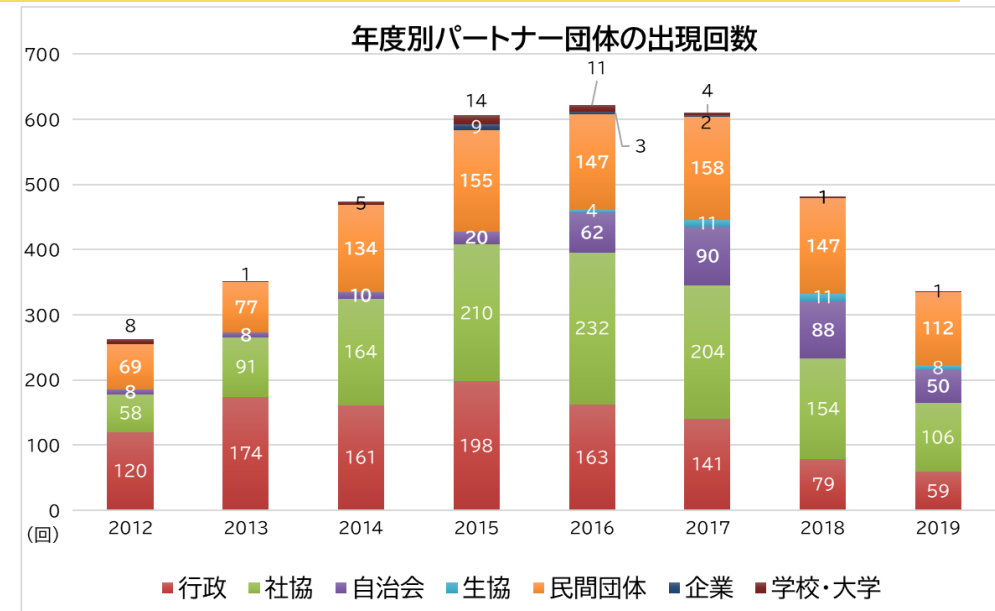
(1)活動体系 料理教室の運営上必要な役割

- ①連絡調整・企画
- ②場所の確保
- ③参加者への声掛け、
- ④食材・調理器具の準備
- ⑤レシピ考案
- ⑥料理教室の講師

TAF:各地域での展開や自主開催を考慮し、レシピ等のコンテンツの標準化や料理教室のパッケージ化を図った。

(2)パートナー団体の分類

- ①団体名の出現回数:
延3,743回
(料理教室主催者・共催者)
- ②団体の実数:235団体
- ③団体の出現割合:
開始から2015年度まで
公的機関:約7割



直接的支援終了時
公的機関:約5割↓
住民組織(自治会等);2割↑

(3)自主開催に移行した事例の特徴

プロジェクト実施51市町村のうち
→28市町の42団体が自主開催への意向有
*自治会等の住民組織(20団体)が最多

TAFの役割:安全衛生・料理教室運営研修
レシピのコンテンツの提供

結論

自主開催に移行した団体において自治会等の住民組織の割合が高い
→地域の交流活動の一部として取り入れやすく、コミュニティの活性化に寄与するプロジェクトであることが推測された。